

いずみざき

議会だより No.59

令和6年2月1日発行

輝く未来を子ども達へ

クリスマスお楽しみ会：たんぽぽ組



ひよこ組



つくし組



ひよこ組



いずみちゃん

目次

- 表紙……………泉崎保育所
- 2～3ページ……12月議会定例会報告
- 4～12ページ……9名の議員が村政を問う！
- 13～14ページ……議会インフォメーション・編集後記

泉崎村HPアドレス：<https://www.vill.izumizaki.fukushima.jp/>

報告 会期 12月1日(金) ～12月8日(金)



一般会計補正予算

議案第56号 令和5年度泉崎村一般会計補正予算（第4号）の主な内容		
5,025万3千円を追加し予算総額を38億4,172万円とする		
歳入	金額	内容
物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金（低所得世帯支援枠）	4,346万7千円	追加交付を行うための財源を増額補正
国庫支出金（社会資本整備総合交付金事業）	△3,569万9千円	新田矢吹線道路補修工事の事業費確定により減額、プールの過機の減額
繰入金（財政調整基金）	2,852万7千円	増額補正
諸収入（公有建物災害共済会）	896万5千円	落雷による防災無線の修繕保険料
諸収入（総合賠償保険金）	1,980万円	サイバー攻撃によるデータの復旧にかかった保険料
歳出		
地域経済応援事業	3,281万2千円	1人5,000円分の地域振興券を発行
戸籍住民登録費（社会保障・税番号制度システム整備費）	821万2千円	戸籍にフリガナをつけることができるようシステム改修
社会福祉費（低所得者世帯支援給付金）	4,235万円	追加で7万円の交付を行うため
救急安心センター事業負担金	25万2千円	体調不良時に電話で相談ができる
土木費（新田・矢吹線舗装補修工事）	△6,153万4千円	事業費確定により減額補正

質疑・応答(一部抜粋)

質) 救急安心センター事業負担金、どういった内容？

答) 令和5年4月1日から開設された福島県救急電話相談。15歳以上の方で具合が悪くなった場合の電話相談で保健師や医者の方が相談窓口となり、今どういった状態かを伺いながら、様子を見るや救急車を呼ぶ等アドバイスをしてくれる。場所は県庁の相談窓口になる。#7119に電話をかければ対応してくれる。

質) 運動公園管理費備品購入費のスポーツ用品等とは？

答) 陸上競技場を利用してジュニアサッカー（主に小学生）の練習や大会を行いたいとの問い合わせが多いことから小学生ジュニアサッカーゴール2セット購入。さつき運動公園の利用者の増加につながるのではないかと考えている。



録画映像はこちらから
スマートフォンでも視聴可能！

※アクセス件数

- ・議会会議録
延べ件数 7,734件（月平均 47.7件）
- ・議会映像中継
延べ件数 7,761件（月平均 47.6件）



議会会議録、議会の映像を確認できます！～村HP「村議会」から確認ください～

令和5年 第4回 12月定例会

(✓：議長は採決に加わりません 欠：欠席)

議案番号	議案件名	議席 可・否	1	2	3	4	5	6	7	8	9	議長 岡部 英夫	議案審議日
			円谷 亮一	白石 正雄	鈴木 義男	木野内 悟	加藤 恵子	鈴木 保仁	安藤 茜	長久保 孝行	野崎 隆		
議案第50号	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 人事院勧告に基づき、福島県人事委員会より出された職員の給与に関する勧告に準じ、初任給を中心に若年層の給料月額を引き上げ、期末勤勉手当年額0.1月分の引き上げを行うため条例の所要の改正を行うもの	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/1 議決分
議案第51号	泉崎村一般職の任期付き職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/1 議決分
議案第52号	泉崎村国民健康保険条例の一部を改正する条例	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分
議案第53号	泉崎カントリーヴィレッジ・ターミナル設置条例の一部を改正する条例	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分
議案第54号	泉崎村介護老人保健施設及び泉崎村国民健康保険診療所の指定管理者の指定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分
議案第55号	公私連携型保育所泉崎保育所の運営等に係る協定の締結について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分
議案第56号	令和5年度泉崎村一般会計補正予算(第4号)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分
議案第57号	令和5年度泉崎村介護保険特別会計補正予算(第3号)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分
議案第58号	令和5年度泉崎村住宅用地造成事業会計予算(第2号)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分
議案第59号	令和5年度泉崎村水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分
議案第60号	議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例 一般職に準じ、議会議員の期末手当の支給率を引き上げるため条例の所要の改正を行うもの	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/1 議決分
議案第61号	村長等の諸給与及び費用弁償額並びにその支給方法に関する条例の一部を改正する条例 一般職に準じ、村長等の期末手当の支給率を引き上げるため条例の所要の改正を行うもの	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/1 議決分
選挙第4号	泉崎村選挙管理委員会委員及び補充員の選挙について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分
発議第5号	国民の命と健康を守るため、政府の責任ですべての医療・介護従事者の処遇改善と人員増を求める意見書の提出について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分
発議第6号	泉崎村議会政務活動費の交付に関する条例	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	✓	2023/12/8 議決分

選挙第4号

地方自治法第182条の規定に基づき泉崎村選挙管理委員会委員及び補充員の選挙を行う。

◇泉崎村選挙管理委員会委員（4名）

氏名	住所
緑川 輝夫	関和久字古寺
真鍋 篤市	泉崎字日渡山
高橋 栄	関和久字豊田
鈴木 實	泉崎字根岸前

◇泉崎村選挙管理委員会補充員（4名）

補充順位	氏名	住所
1	橋本 忠	太田川字岩崎
2	北澤 雄一	関和久字上町
3	田崎 武浩	関和久字瀬知房後
4	佐々木紀一	踏瀬字後原

当
選
者

泉崎南東北診療所 について

木野内 令和6年3月末をもって5年間の業務委託契約が終了となりますが、今後の見通しを伺う。

保健福祉課長 現在行っている指定管理者の指定と同様、総合南東北病院を委託先とし、期間を令和6年4月から令和11年3月末までの5年間で契約更新予定としております。尚、内容につきましては、変わらないところで進めております。

木野内 小児科は週に一度の診療がありました。近隣を見ても十分に整っているとは感じにくく、村民か



木野内 悟 議員

らも、受診の回数を増やしてほしいとの声もあり、子どもを持つ家庭の安心を担保する、若い世代に住んでいただく観点からも、拡充は必要かと思うが、村の考えを伺う。

保健福祉課長 全国的に小児科医師が不足しており、南東北病院も同じと報告を受けております。村としても、医師の派遣を要望しておりますが、本院でも不足していることから、ほかの病院に依頼し、村への医師派遣を対応いただいている状況であります。医師の確保が困難な状況にありますが、引き続き診療日数を増やせるよう要望を続けたいと考えます。

木野内 南東北病院より建て替えの要望があり、基金を積み立てております。目標額と建て替え時期を伺う。

保健福祉課長 建て替え事業基金の残高は1億6千万円であり、今年度において2千万円の積み増しを予定

しております。目標額については現時点においては設定しておりません。建て替え時期につきましては、耐震補強されているものの、老朽化が進んでいることから、早期の建て替えが望まれている状況ですが、手順を含み、建設計画を立ててまいりたいと考えておりますが、現時点での時期は未定となっております。

保育所について

木野内 全国的にも少子化問題があり、本村においても同様であります。若い世代に定住、そして出産をしていただくことが今後必要と考えます。安心して子どもを預けられる環境、そして家庭の負担軽減を目指す必要があると感じますが、現在の預かり状況と来年度の予定人数について伺う。

教育課長 11月末現在、保育所の預かり状況は、ゼロ歳児12名、1歳児29名、2歳児31名の合計72名となっております。また、来年度

の予定人数は、ゼロ歳児9名、1歳児22名、2歳児31名の合計62名の申し込みをいただいております。

木野内 保育料の無料化を目指したいと思っております。将来、保護者の就労の有無にかかわらず、全ての子どもを預けられる認定こども園にしていけば、唯一有料になっている保育所も無料化が可能になり、子育てをする世代からも注目されると思うが、認定こども園の構想があるのか伺う。

村長 現在は保育所を民営化して、社会福祉協議会に委託しており、5年が経過する状況の中、特に大きな問題もなく、順調に推移していると感じております。保育料も2人目からは無料になっております。当面はこの形態を維持しながら、今後、保育所の老朽化の進捗状況、子どもの出生率、さらには住民のニーズ調査等を確認しながら方向性を模索してまいりたいと考えております。

学校給食について

木野内 給食においては無償化となっておりますが、聞くところによると残食が多いと伺っております。幼稚園、小学校、中学校での状況、また対策について伺う。

教育課長 年間1人当たりで換算しますと、幼稚園では約6.6kg、第一小学校では約5.8kg、第二小学校では約4.7kg、中学校では約11.8kgの残食となっております。対策としては、学年ごとにテーマを設け、栄養士、養護教諭、子ども達が一緒に進んでおります。村としては、他市町村の給食センターとも課題や情報を共有し、残食を減らす取組、献立の工夫などを参考にしたいと思っております。食育は学校だけでなく、給食センター、村、家庭が一体となって取り組んでいくことが、一番重要であると考えております。

学校給食施設建設

白石 給食施設建設の計画と進捗状況を伺う。学校給食は政治的にも教育政策ばかりでなく、福祉政策や農業政策、あるいは災害対策としてもその効果が認められてきている。和食が世界から注目されている中で食の安全も重要問題、そうした観点から深い検討が必要だったのではないかと。現代社会では貧困や災害対策として果たす学校給食の役割が重要になっている。給食提供会社の倒産も報道されている。地元雇用を増やし、安全な地元農産物の使用や公共サービスへの責任ある提供のためにも民間委託は避けるべきでないか。



白石正雄 議員

教育課長 学校給食センター運営協議会と定例教育委員会の開催に合わせ、給食セ

ンターの抱える課題と現状を説明、協議を重ねてきた。それらの意見をまとめ12月1日議会に報告した。和食の重要性と食の安全については、11月24日を和食の日とするともに毎月和食の日を設け取り組んでいる。和食は地域文化に根ざし多様な地元食材と、素材の味を活かす調理技術、調理道具の発達、一汁三菜を基本に理想的な栄養バランス、自然の美しさや四季を食事の場で表現すること。年中行事との密接な関わりなどが特徴。ユネスコ文化遺産である日本の伝統的な和食を学校給食を通して今後とも学んでいく。

白石 今議会に説明資料を出してきて、1月から敷地測量に入るといっているのは議会軽視でないか。説明会資料には①理念と方針がない。②地産地消で村の活性化の視点が無い。③安心安全な食品の使用という観点が無い。④食事作りが見えないところで行われることが本当の教育になるのかの観点が無い。私は2019年9月議会以降7回に渡って給食問題をとり上げてきた。国は一時的、政策としてセンター方式の推進をしてきたが、文

部省は1989年に保健体育審議会が、センター方式を自校方式にするよう努力しなさいと答申を出している。自校方式は教育効果が高い。センター方式は撤回すべきです。

地場産業の創造的振興

白石 経済衰退が止まらず、あらゆる面で劣化が進んでいる日本経済を立て直すためには地方政治が地方経済をどう立て直すかが鍵になる。泉崎村には実行部隊がない。鏡石町では昨年6月に鏡石振興公社を立ち上げている。泉崎村としても振興公社を立ち上げ、地域振興のために特化して、継続して産業起こしができる中心組織を作る必要がある。

産業経済課長 提案の専門員の組織づくりは必要と認識している。公社に付きましても、いざれ必要となる際には大事業となるので各方面と協議を行った上で指導をいたしながら検討していきたい。

道の駅建設提案

白石 矢吹インター周辺赤沢山に、広域連携で、東北の玄関口にふさわしい道の駅を構想するべきでないか。

建設水道課長 そうした論議はこれまでなかった。地域活性化策の一つとして受け止め、各種情勢を踏まえながら考えていきたい。

村長 本村の優先課題は、駅と周辺整備、給食センター、病院の建て替え、上下水の老朽管更新、これらが最優先課題。近隣町村の意向も検討してみたい。

奨学金返済軽減

白石 大学生の3人に1人が平均300万円の借金を抱えて社会に出ていく現実がある。諸事情で自己破産する人も増えている。三春町では町内に住所のある人に、年度内に返還した金額の最高18万円まで8年間支援することがやられている。泉崎村としても軽減措置が必要でないか。

教育課長 償還額の期間延

長や一部免除、給付型への変更。泉崎村に帰郷したいと思える村作りも重要と考えている。

五本松の並木整備

白石 矢吹町分については整備されているが泉崎村分については手入れがされていない。定期的な整備が必要でないか。

教育課長 今後は定期的に除草など周辺環境整備と合わせ実施していく。

泉川河川整備 排出土砂の活用

白石 泉川の川底を掘り下げて整備するべきで、排出土砂は駅東口開発用盛土や水田基盤整備用の客土として活用すべきでないか。洪水防止対策にもなる。

建設水道課長 県南建設事務所に確認したところ、村の事業であれば活用できるとのことであった。駅周辺整備及び水田基盤整備事業においても客土が必要となるため検討したい。

県道未完成バイパスについて

鈴木 第5次泉崎村総合振興計画に記載されています第2章道路・河川・交通体系整備基本計画・幹線交通系の整備促進との記載があり、県道バイパスなどの未完成路線についても着手可能な環境整備に努めるとも記載されています。現在の県道バイパスの工事進行状況をお伺いします。



鈴木保仁議員

建設水道課長 県道母畑・白河線のバイパス工事整備につきましては、平成10年度に用地取得困難といった要因により事業が休止状況であります。事業再開に向けては、まず、地権者全員のご理解が必要であるため、意向確認をしていきたいところですが、まだ、進めてほしいというまでは至っていません。

鈴木 現在通行している県道・村道線は交通量も多く、また、道幅も狭い。今年に既に、車両の追突事故・単独事故が発生しています。この様な状況の道路で、いつ悲惨な交通事故が起こってもおかしくはなく、起こってからでは遅い。子どもさんがいる家庭からすれば、今も通学路で使ったり、また、高齢者に至っては、自転車を利用して郵便局に行ったり、買い物に行ったりする道路です。今後、どの様に県道バイパス工事を進めて行くのか伺います。

建設水道課長 この県道バイパス整備については、福島県南建設事務所と年2回行います連絡調整会議において、継続して要望しているところですが、福島県としても必要な事業としており、今後も継続して、県と連携を図りながら、地権者の賛同を得られるよう進めていきたいと考えております。

鈴木 皆さん口をそろえて言うのが、目に見える形が見えない。ぜひ、今後、目に見える形で進めて頂きたい。この関平地域、この道路を使う者にとっては、最優

先でお願いたく、行政にはご尽力願いたい。



福島県子ども救急電話相談・福島県救急電話相談の普及について

鈴木 福島県では、お子様を対象とした福島県子ども救急電話相談#8000番

を推奨しているのはご存じでしょうか。また、2023年4月1日より県内市町村共同事業として、救急電話相談#7119を推奨している事は、こちらにも重ねて伺います。

保健福祉課長 福島県子ども救急電話相談につきましては、福島県が実施している電話相談窓口であり、平成19年7月27日から運用を再開しております。夜間、急に身体の具合が悪くなつた、お子さんの保護者が対象となり、携帯電話、固定電話のプッシュ回線から局番なし#8000番となります。福島県救急電話相談につきましては、福島県が実施している電話相談窓口となります。令和5年4月1日より運営が開始された対象年齢15歳以上で急に身体具合が悪くなった県内在住の方。携帯電話、固定電話のプッシュ回線から局番なし#7119となります。以上、2件につきましては、承知をしております。

鈴木 救急電話相談は、いざと言う時の判断材料ともなり、子育て支援・住民サービスの一環として、ネット・ホームページに掲載・回覧など、泉崎村でも、ぜ

ひ推奨してはいかがでしょうか伺います。

保健福祉課長 福島県子ども救急電話相談の広報活動につきましては、保健師による出生時の家庭訪問の際にチラシを配布し事業の内容について説明を行っております。また、村広報紙1月号に掲載をしております。福島県救急電話相談の広報活動につきましては、窓口や電話での問い合わせに対応している状況であります。この事業について、どれくらい住民の方が把握しているのかは不明でありますので、ホームページ及び広報紙の掲載回数を増やし、村民へ広く周知を図ってまいりたいと思っております。なお、質問に取り上げていただきたいからではございますが、村のホームページに掲載を開始致しました。

鈴木 泉崎村も子育てをしている若い人たちに、こういったサービス、情報というのには絶対に必要です。是非、各課でアンテナを広げて頂いて、もし、いいのであれば、早急に住民の方に情報を流して頂きたい。これからも行政の皆様にご尽力していただきたいと思います。

災害時の非難所について

長久保 災害は突然やってくるということは承知と思っています。平成10年の「8・27豪雨災害」、平成二十三年の「東日本大震災」、その後も異常気象による自然災害が頻繁に発生している状況で、令和3年には、内閣府より避難勧告が廃止され、警戒レベル4で避難指示（必ず避難）となったことで、行政の防災対策が非常に重要となっております。村では指定の避難所が15カ所ありますが、避難所の出入口のスロープ及び手すりの設置状況を伺います。



長久保 孝行 議員

住民生活課長 福祉避難所（2カ所）を除く13カ所について①手すり、スロープの設置無しは「幼稚園、第一、第二小学校、中学校、保育所、八雲地区コミュニティセンター」の六カ所、②出入口がフラットな為、手すり無しは「防災センター」の1カ所。③スロープ設置有り、手すり設置無しは「農業者トレーニンングセンター、資料館」の2カ所。④スロープ、手すり有りは「中央公民館、児童館、関和久宿集会所、役場」の4カ所となっております。

長久保 福祉的な面も含めて、スロープや手すりを整備している近隣自治体もあります。すべての避難所への設置が理想ですが、大人数収容の避難所である小学校体育館への手すり、スロープの設置は、高齢者や幼児等のスムーズな避難誘導に繋がる為、是非整備していただきたいが、村としてはどうお考えか伺います。

村長 現段階で整備するといった計画はありませんが、緊急性や必要性が迫ったものがあるのかなと感じた次第であります。主旨はよく理解したので、今後は状況確認しながら方向性を含め検討してみたいと思います。

長久保 現在の避難所15カ所の他にも、地区の集会所や公民館があるが、指定避難所にしない理由があるのか伺います。

住民生活課長 村の指定避難所は災害対策基本法施行令の指定避難所の基準に基づいて指定しております。一点目は、被災者等を定在させるために必要な規模。二点目は、被災者等を受入れ又は生活関連物資を被災者等に配布することが可能な構造、設備を有する。三点目は、災害による影響が比較的少ない場所。四点目は、輸送が比較的容易な場所。五点目は、要配慮者、高齢者、障害者、乳幼児そ

泉崎村の住所について

の他特に配慮の要する者の良好な生活環境の確保に資する事項について内閣府令で定める基準に適合するもので、村には他に集会所等もあるが、規模、設備等を総合的に判断し14カ所を指定避難所としています。

長久保 近隣市町村の変遷を見ると、旧東、表郷、大信村は、平成の市町村合併により白河市に準じた住所に変更。また矢吹町は昭和30年に旧矢吹、三神、中畑村が合併。その25年後の昭和55年に大字の全撤廃により住所を簡略化しております。このような中、村民より住所簡略化の要望の声があります。村としてはどう考えるかを伺います。

総務課長 まず村としての考え方ですが、基本は字を変えることは可能です。但

し多くのシステム改修が必要で、概算で約二五〇〇〇三〇〇〇万円程度の費用が見込まれます。多くの改修作業と高額な費用がかかるという観点から、財政状況を見極めながら、優先順位を踏まえ慎重に検討していく考えでございます。

長久保 村の色々な課題がある中で、住所簡略化の質問を取上げたのは、泉崎村のイメージが変わると思っ

ているからです。また近年は事務の効率化が重要であり、デジタル化が進む中でも、まだまだ住所を自筆で記入しなければならぬ書類は多くあり、住所簡略化は効率化を図る一つと考えられています。しかし住所については色々な意見があり、中には愛着を持って書いている方もおられますので、できるだけ多くの村民の意見を聴取しながら「次世代の為、泉崎村の活性化の為」に前向きに検討して頂きたいと思えます。

不登校児童生徒について

円谷 文部科学省の調査結果によると、令和4年度の小中学校における不登校児童生徒数は29万9千人で、前年度から5万4千人、約22%増加し過去最高となった。全国的に不登校の児童生徒数が増加している状況の中において、本村の不登校児童生徒の現状及びその背景にある主要因について伺う。

教育長 本村の不登校児童生徒の現状について、令和5年度現在までの状況では、小中学校における不登校児童生徒は、小学校で2%、中学生では、非常にここは



円谷 亮一 議員

危惧しているところであるが、9%在籍している。

昨年度の全国調査と比較すると、小学校では同程度であるが、中学生については、パーセントで見れば1.5倍程度になってきているのが現状である。

さらに、主要因については、学校に関わる状況では、いじめ、友人関係、教職員との関係、学業不振など、家庭に関わる問題では、生活環境の急激な変化、親子関係などで、本人に関わる状況では、生活習慣の乱れや遊び、無気力や不安などである。

全国的には、無気力や不安などが51%の割合を占め、続いて生活リズムの乱れ、いじめや友人関係の問題というような理由になっている。本村の場合も統計的には同じような状況であると把握している。

円谷 全国のデータによると、不登校児童生徒のうち約62%の児童生徒が学校内外の機関などで相談や指導を受けているが、それ以外の約38%の児童生徒は相談

指導すら受けてないということが分かっていて、不登校問題については喫緊の課題であると考えるが、今後の対応や支援策について伺う。

教育長 本村の不登校対策の基本としては、学校復帰を目指し、社会で自立できる支援を考えている。そのための基本的な条件として、共に助け合い、協力して生きる社会なんだということ、子どもたちを含めて学校や家庭や地域全体で共有していきたいと考える。

まず、不登校を出さないためには、学校と家庭が互いに情報交換を図るということが基本になる。定期的なアンケートや調査、スクールカウンセラーや教師自身の教育相談により、子どもたちの心の状態を把握し、適切なアドバイスがで

きるような環境づくりを現在行っている所である。そして、現在不登校になっているお子さんについての支援策としては、学校では職員を中心に家庭の訪問や登校のための手立てを講じ

ており、学びの確保については、今年度から県に要請をし、学習サポーターという制度を導入している。また、いつでも利用できる居場所の確保も計画しており、さらに近隣の市町村教育委員会と連携し、適応教室の利用や関係機関に相談や指導を受けられるよう、ご家庭のほうに情報提供している。

最後に、ご家庭の中でのお子さんとの会話の機会を多く持っていたいただき、子どもたちに寄り添っていた、ということが本当に大事なことなのではと考える。学校とご家庭と連携していきたい。

村道瀬知房・如信沢線の安全対策について

考える。この区間の安全対策として、ガードレールまたはラバーポール等の設置をするべきと考えるが村の見解を伺う。

建設水道課長 村道瀬知房・如信沢線の豊田地区については、蓋やグレーチングのない大きい水路が道路沿いに通っており、水路と道路の間にはガードレールやポール等もない状況にある。今後、水路管理者の穴堰土地改良区とも話をしながら、安全対策について検討していきたい。

円谷 その区間には街灯がついていないので夜間は危険性も高まる。特に冬場は日没も早まり、凍結の恐れも出てくるので、住民の安全を守るために迅速な対応をお願いしたい。

円谷 村道瀬知房・如信沢線の豊田地区の区間において、過去に自動車の転落事故が複数回起こっている。また、この道路は通学路でもあるので、子どもたちの安全を守る上で何らかの対策を講じる必要があると



村道踏瀬・中新城線の道路拡幅整備計画について

鈴木 踏瀬自治会としても要望している踏瀬改善センター裏の村道ですが、国道の4車線化に伴い中央分離帯の設置で国道の横断ができなくなり生活に大変支障を来すことになる。そうなる、南側に当たる村道踏瀬・中新城線の通行頻度が増大します。この道路は道幅が狭く、通行に支障を来している。このような現状では、今後、渋滞や事故等の危険度が増大します。この道路拡幅整備計画について伺う。



鈴木 義男 議員

建設水道課長 この道路の拡幅整備計画については、国道4号4車線化に伴う中央分離帯設置との関係について継続して踏瀬区より要望のある当該村道の拡幅については、村としても重要なことと認識していま

す。当該路線の道路拡幅整備については、今年度、測量設計業務の予算措置をし、11月下旬に業務委託の発注をいたしました。今後はその測量設計等を基に整備について検討を進めていく予定であります。事業工程についてであります。今年度、測量設計業務に着手しましたが、続いては用地買収、それから設計等調整、拡幅工事と実施していくこととなります。各事業工程の実施年度については、用地買収の状況や国道4号4車線化工事の進捗状況、事業予算の調整等があることから、具体的には不明です。なお、最終的には4車線化工事に併せて村道拡幅工事の完了を目指したいと考えております。

泉崎カントリーヴィレッジ、泉崎スポーツガーデン施設の施設拡充整備計画について

鈴木 新型コロナウイルスが5類に移行され、人の移動も多くなり、村での大きな観光資源である泉崎カントリーヴィレッジ、泉崎スポーツガーデン施設での宿泊者及び施設利用者も増えたと見られます。この施設では、さつき温泉、バーベキューガーデン、パークゴルフ場

野球場、ソフトボール球場、体育館など大変多くの施設がそろっているのは、大きな観光資源だと思えます。そんな中で、宿泊者数、利用者層、居住地、利用人数について伺う。

産業経済課長 泉崎カントリーヴィレッジ宿泊者数ですが、コロナ前までの宿泊者数には依然回復していません。宿泊者の増員を目的とした新たな事業計画を指定管理者と考案していきま

教育課長 泉崎スポーツガーデン施設、さつき運動公園施設ごとの利用者数、利用者層、居住地等についてですが、令和5年4月から10月末現在の実績で、団体宿泊者数は延べ6千262人、団体数は204団体、利用者層は、小学生から大学生、都道府県数ですが、14都県、北は青森から南は静岡県まで、居住地別では、東京都の方が最も多く、次に埼玉県の方となり、宿泊目的の内訳は、さつき運動公園の施設利用が全体の約73%を占めております。

鈴木 この観光資源を、村としてどのように生かしていくのか伺う。

村長 本村の観光資源は、あそこが唯一だと思えます。コーポレーションのほうで

も集客に向けて様々な手を工夫して、そして集客に心がけて取り組んでいきます。そういった面、評価しながら村のほうでもできるだけの応援をしていきたいと思

鈴木 今後、泉崎駅東口開発からの動線を考えた上で、これらの施設の拡充計画も必要ではないでしょうか。提案というところでアスレチック施設を兼ねた公園、あと観光農園、キャンプ場などの施設の計画検討を提案いたします。

産業経済課長 観光農園の計画検討についてご提案ですが認定農業者及び法人への働きかけを行い、関係機関とご相談をしながら指導の可否を含めて検討してまいります。

教育課長 アスレチック施設を兼ねた公園、またキャンプ場などの施設計画検討についてですが、今後、村です事業計画を進めており、泉崎駅東口開発に伴い、これら地域活性化に伴い、拡大と地域活性化についても村としても期待したいと思

重要であると考えております。泉崎村の将来を見据え

た事業計画と、財政規模に見合った設備計画が最も重要であると考えています。施設の改修や現在のさつき運動公園内の空きスペースの活用なども含め、検討が必要と考えております。新たな施設整備に当たっては、利用者のニーズに合った施設整備、そして交付金や補助金が活用できる施設であるか、整備後の維持管理に係る費用などを総合的に考え、慎重に検討を重ね進めていきます。

鈴木 福島県で広域県南サイクリングロードを、県南東西白河地域で約142キロのサイクリングロードのルートを設定しました。当初のルートからさつき公園の観光資源を生かすべく、この観光資源を生かすべく、県道へ変更したと聞き、また、これらのカントリーヴィレッジ、スポーツガーデン施設に魅力を感じて移住を考えている人もいます。このような話も聞きました。これからますます人口減少、少子化、高齢化の対策が必要とされる中で魅力的な泉崎村を発信させるべく、これらの施設を拡充し、交流人口の拡大、そして定住化、移住化へのつながりになって促進が進めばよいと思

県道塙・泉崎線について

野崎 県道塙・泉崎線の井戸沼理髪店近くの交差点に約3か月くらいパイロンが設置されているが、詳細を伺う。また、近くの電柱が倒れかかっているが対応を伺う。

建設水道課長 ご指摘のとおり、県道塙・泉崎線の井戸沼理髪店近くの交差点の角にパイロンが設置されておりです。

9月中旬に野崎議員より連絡があり、現地を確認しておりますが、路肩部分が若干空洞となつて損傷して



野崎 隆 議員

おり、パイロンが設置され注意喚起のテープが貼られておりました。

当該箇所は、県道塙・泉崎線の一部で福島県南建設事務所管理であるため、現地確認後すぐにいつ頃なおす予定か問い合わせをしたところ、予算の調整中というものであります。

その後、11月上旬ですが、同様の状況であったため、再度、福島県南建設事務所にて連絡をしたところ、改めて現地を確認し対応を検討しますとの連絡を受けております。

続いて、「近くの電柱が倒れかかっているが対応を伺う」とのご質問について、ご答弁申し上げます。

先ほどの県道路肩損傷箇所近くに建柱されている傾きのあつた電柱のこととあります。8月下旬に近くの方より、電柱が傾いていると電話があり、すぐに現地を確認し、翌日、県道塙・泉崎線の道路敷であることから福島県南建設事務所

に連絡し、またNTTの電信柱であつたため、NTTホームページ上にある問い合わせフォームに入力し連絡を入れたところであります。

その後9月上旬に、修理を依頼されている民間の業者から、「車両がぶつかり傾いた。倒れないように応急処理はしている。」旨の返答があつたところです。そして現在ですが、新しい電信柱に建て替えられ、すでになおっている状況であります。



幼稚園入園時お祝品について

野崎 小学校入学時にはランドセル、中学校入学時にはカバン・ヘルメットを贈っているが、幼稚園入園時にもジャージ・カバン等一式を贈つてはと思うが見解を伺う。

教育課長 ご質問いただきましたが、幼稚園入園時のお祝品については、野崎議員ご承知のとおり、小学校入学時のお祝い品は、ランドセル・中学校入学時のお祝い品は、カバンと通学用ヘルメットを贈呈しておりますが、入園時のお祝い品としてはなかつた状況となっております。

そのため、村としまして、新しく入園を迎えられる皆様の、健やかな成長と幼稚園入園のお祝いを込めて、カバンの贈呈に向け準備を進めて参りたいと考えております。

生ごみ処理に関する問題について

加藤 西白河郡に配布された、ゴミ処理に関する住民の皆様へのお願いと題したチラシを見ても分かるように、「1日1人あたりのゴミの排出量」は全国平均890gに対して、福島県は1,029gと大幅に上回っており、ゴミの減量への取り組みが必要と考えます。

方法として、今回私が提案したいのは、生ゴミの水切りに注目し家庭用生ゴミ処理機を各家庭で購入し生ゴミを減らすのはいかがでしょうか。これには、各家庭の負担を軽減するためにも購入のための補助を出せばよいのでは。



加藤 恵子 議員

は。全国でも助成金を出すとあった広がりを見せています。近隣の市町村でも、二万円から三万円助成されている所があります。当村としても検討すべきではないかと思いますが、村としての見解を伺う。

住民生活課長 近年、自然環境の悪化から環境への負担を減らすため、一人一人のゴミの減量化やリサイクル等への意識向上を図ることが重要とされております。

生ごみには、水分が多く含まれており、生ゴミ処理機を使うことで水分を飛ばし生ごみを減量することが出来ます。

そのような中、質問内容となりますが家庭用生ごみ処理機の購入助成につきましては、県内市町村においても助成制度の導入がある事から、ごみの削減と資源化に向けた取組を推進しながら、検討して参りたいと考えております。

八雲自治会からの歩道設置の依頼（陳情）について

加藤 八雲自治会からも陳情書が上がっていると思いますが、八雲ニュータウンの西側に位置する道路の歩道設置について、歩道が途中になっている所から児童館までの道路について、どうして歩道が途中までしかないのか伺いたい。

八雲自治会と私からの要望として、
①歩道が途中で切れた所から児童館までの道路に歩道を設置してほしい。
②八雲ニュータウンを下ってきて左側に向かうブイチェンへ行く道路に、歩道を設置してほしい。

この道路は小学生・中学生の通学路でもあり、高齢者の買い物へ行ったり散歩コースの道路でもあります。歩行者の安全を一番に考え、ぜひ検討して頂きたいです。

建設水道課長 ご質問にありますが歩道設置につきましては

では、令和5年11月10日付けで八雲自治会から陳情書が提出されており、承認をしているところでございます。

まず、ご質問にある、「八雲神社から児童館方面への道路について、どうして歩道が途中までしかないのか。」についてでありますが、歩道を整備する上で、八雲自治会の方とやりとりをしながら進めていたという事は確認できましたが、過去の要望書や陳情書、記録等が見つかりませんでしたので、推察にはなりません。その当時、八雲ニュータウン等の児童の第二小学校への通学路でありましたが、歩道がなかったため、第二小学校体育館につながる入口付近までということ、現在の箇所まで歩道を整備したと思われれます。

次に、八雲自治会と加藤議員からの要望としてあります。①の歩道が途中で切れた所から児童館までの道路と②八雲ニュータウンを下り左側に向かうブイチェンに行く道路で、現在花壇

になっているところへの歩道設置につきましては、自治会陳情書の内容及び加藤議員のご意見を踏まえると共に、現地の状況等を十分に精査しながら検討して参りたいと考えております。



総務厚生常任委員会 報告

令和5年12月1日午後2時40分から総務厚生常任委員会を議員控室において開きました。所管する各課課長同席のもと陳情書2件の審議及び、今議会に提出されている議案の詳細や各課の事務内容について伺いました。

陳情書第5号、「すべての医療・介護従事者の処遇改善と人員増を求める陳情」については医療・介護従事者の賃金引上げなどの処遇改善で人材を確保し、安全・安心の医療・介護体制を築くため、国民の命と健康を守るため、すべての医療・介護従事者の処遇改善と人員増に向け診療報酬・介護報酬の大幅引き上げを求める意見書提出の陳情について、審議の結果「採択」としました。

陳情書第6号「健康保険証廃止の中止を求める陳情書について」は、政府が現行の健康保険証を令和6年秋に廃止し、マイナンバーカードに一本化する法案を成立させました。

マイナ保険証において、個人情報や自己負担割合の誤入力、情報漏えい、更に医療機関では、マイ

ナンバーカードでの受診トラブルが続出していることから、中止を含め見直すことが強く求められています。開始時期を先送りする内容の陳情であれば直ちに賛同するところであり、現段階で健康保険証の廃止の中止を求めるまでは、賛同できないと判断し、不採択と致しました。

他に災害のアプリで避難所の確認、また災害時の役場や村民の動きを確認する必要があること。各課、年間を通して仕事の分量が様々であることから人員が適性が検証する必要があると今後も引き続き

- 一、災害について
- 二、各課の人員について

を題材に検討・調査をすることとしました。



経済文教常任委員会 報告

令和5年12月1日午後2時30分から経済文教常任委員会として第二会議室において委員全員で12月定例議会議案について各関係課長同席のもと委員会を開きました。内容は次の通りです。

1. 産業経済課
 - ・ 泉崎カントリーヴィレッジ料金規定の所要改正及び畑地化促進事業（土地改良区地区除外決済金支援）他について質疑応答を行いました。
2. 建設水道課
 - ・ 新田矢吹線舗装補修工事、道路維持修繕費他について質疑応答を行いました。
3. 教育課
 - ・ 学校給食センター建設において共同調理方式が良いとの意見と自校式が良いとの意見も出ました。



議会に届いた請願書・陳情書

	件名	提出者	結果
陳情書第5号	「すべての医療・介護従事者の処遇改善と人員増を求める陳情」	福島県医療労働組合連合会 執行委員長 高橋 勝行氏	採択
陳情書第6号	「健康保険証廃止の中止を求める陳情書について」	福島県社会保障推進協議会 会長 佐藤 和久氏	不採択

* 次期定例会の予定 *

開会2月29日(木)

一般質問3月7・8日(木・金) / 議案審議3月12日(火)

視察来庁

○11月14日(火)

矢祭町議会産業常任委員会の皆様が泉崎村で行っている定住促進戸建て住宅事業の視察の為に来庁されました。事業の概要説明後、建設中の9号棟の現地視察を行いました。

福島駅伝選手応援

○11月19日(日)

ふくしま駅伝の選手応援に駆け付けました。一生懸命に走りぬぎ村の部2位というとても素晴らしい成績でした！
選手の皆さん、サポーターの皆さん、関係者の方々ご苦労様でした。



4区 鳥見山中継所付近



3区 泉崎中継所



13区 松川体育館付近



11区 大玉村中継所



7区 4号バイパス付近

編集後記

村民の皆様、本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

さて、1月1日に石川県能登地方を震源とした地震が発生しました。なんと言葉にすれば、あまりの驚きと痛ましさ言葉がでません。

まずは、亡くなられた方々とご家族の皆様にご心よりお悔やみ申し上げます。被災地の皆様の安全と復旧・復興をお祈りいたします。計り知れない悲しみと苦しみの中と思います。

東日本大震災の教訓をいかして、1人1人出来る事から支援の輪が広がっていくことを切に願っております。

(文責：加藤)

編集・発行責任者

議長 岡部 英夫

編集委員長 加藤 恵子

委員長 円谷 亮一

副委員長 白石 雄

委員 鈴木 義男

委員 木野内 悟

委員 〃 〃